

令和6年度 きらめき未来塾 お笑い道場

～ユーモアのセンスやウイットに富んだ自己表現力を育てる～

講師 フリーアナウンサー 牧内直哉氏（社会人落語家・安野家仁楽齋）

参加者 小学4～6年生 20人

お笑い道場は、ことばあそびをテーマにした講座です。短めの笑い話「こばなし」、問いに対して異なる意味を持った2つの言葉を掛ける「なぞかけ」、五七五の「折句」などに取り組み、参加者それぞれが発想力や表現力を養い、ユーモアのある表現ができるようになりました。

第1回：8月1日（木） 自由に自己紹介してみよう



先生の自己紹介（落語を披露）

はじめに先生が自己紹介し、ことばあそびの説明と落語を披露されました。団子や麺類を食べる様子などを扇子と手ぬぐいで巧みに表現され、惹き付けられました。続けて、子どもたちも高座に上がって自己紹介。緊張していましたが、先生から好物や夢などについて尋ねられると、笑顔で返すことができました。



子どもたちも高座で自己紹介

第2回：8月8日（木） 「こばなし」「なぞかけ」をやってみよう

子どもたちの趣味や夢などをもとに、先生が考えた高座名（芸名）が発表されました。
将来は小説家になりたい「人創亭 述鈴」、バスケットが好き「人創亭 冗弾」など、



こばなしの練習風景

いずれも個性豊かな芸名に子どもたちは大喜びです。

子どもたちは、早速、覚えてきた「こばなし」を高座で披露しますが、表情が固く、あまり声を出せなかったりしました。「こばなし」を終えると雰囲気や和らぎ、「なぞかけ」や作文リレーの「あいうえお作文」を伸び伸びと発言することができました。



一人ひとり、先生から高座名（芸名）をもらう

第3回：8月16日（金） ユーモアを交えて表現してみよう

高座に上がるのにも慣れ、「こばなし」に前置きを付け足す工夫をしたり、登場人物ごとに顔の向きを変えて話したりできるようになってきました。「なぞかけ」では、クイズ形式で発表するなどして、楽しんでいます。「折句」は字余りすることもあります。笑いをとろうと一生懸命に頭を捻っていました。



なぞかけや折句に頭を捻る

第4回 8月25日（日） お笑い大会（発表会）

最終回は高志会館の大ホールで発表会『お笑い大会』です。保護者などが観覧する中、一人ずつ高座でこばなしを堂々と披露することができ、会場は笑い声と拍手で包まれました。



ユーモアあふれるなぞかけや折句に大盛り上がり

なぞかけや折句は、全員が舞台上で発表しましたが、次々と挙手をして発表。優れた発表内容には会場から感嘆する声も上がり、大盛り上がりでした。

みんなで大笑いした最終回。最後に先生から「修了笑書」を受け取り、笑顔で記念撮影できました。

修了笑書を手元に記念撮影



こばなしを堂々と披露

